

2022-2023 留学生の期末レポート

マッシモ・ヴァンナ・フランチェスカ k2290011

あっという間に、日本に帰ってきてから1年が経ちました。6回目の日本滞在、2回目の交換留学ということで、何が起こるかわからないと覚悟していましたが、人生には驚きがいっぱいで、これまでもたくさんの予想外のことが起こっています。

お茶の水女子大学で過ごした2学期目は、当初1学期だけの予定だった私にとって初めての驚きで、研究を続けるために大学からこの機会を与えられたことは本当に恵まれていると思えました。日本に来た最大の目的である研究は、日本滞在中、最も重要なものでした。そして、研究がほぼ完了した今、私が今の地点に到達できたのは、すべての人のおかげであると考えずにはられません。

そこで、私が諦めずに目的を達成することができるようになった、貴重な出会いの数々を紹介したいと思います。

まず、指導教官である小林先生ですが、本当に私の道しるべとなる方でした。研究の焦点の選択から、困難な状況での人生相談に至るまで、忍耐強く私に向き合い、指導を必要としているときにいつも寄り添ってくださったことに感謝します。

第二に、大野さんに感謝したいと思います。お茶の水に到着する前、日本がまた開国するかどうかかわからない状況の中、大野さんはいつもすぐに情報を提供してくれ、日本入国の難しい手続きを忍耐強く指導してくれました。入国してからも、大野さんには本当にお世話になりっぱなしで、いつも私の要望に応じてくれています。

そして、沖縄の先生方、宮城先生、崎浜先生、北枝先生に感謝したいと思います。先生方は、現地調査中の私を沖縄で温かく迎えてくださり、私の要望をすべて聞き入れてくださいました。特に、宮崎教授は私の研究をよく理解してくださり、この2学期中、私が必要とするすべてのデータを集めるために最善を尽くしてくださり、それなしには私の研究は成り立たなかったでしょう。

また、お茶の水女子大学に滞在している間、ずっとお世話になった寮のスタッフについても触れないわけにはいきません。最初は寮のルール（夜間外出禁止など、今でも少し違和感のあるルールもあります）を理解するのに少し苦労し、寮に慣れることができづらでしたが、幸運にも管理人の本田さんと知り合うことができ、彼女はとても面倒見がよくて愛情を持って対応してくれています。本田さんは、私が1階で勉強しているときに様子を見に来てくれたり、ガス会社への登録や彼氏のことの相談など、困ったことがあるとすぐに助けてく

れました。私が出かけると「行ってらっしゃい」と元気な顔を見せてくれたのがとても懐かしいです。

最後になりましたが、お茶の水で出会ったすべての友達に感謝します。フランス人の親友ピアンカをはじめ、他の交換留学生、新しい日本人の友人、アイススケートサークルの皆さんは、私の留学時間をより充実させ、孤独感を感じさせないようにするために、尽力してくれました。特に、3月の日本への飛行機で出会ったジョンには、初日からずっと私のそばにいてくれたことに感謝しています。

